
KENKYUSHA'S

LIGHTHOUSE

ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

SECOND EDITION



KENKYUSHA
LIGHTHOUSE
ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

ライトハウス
英和辞典

〈第2版〉

編者

竹林 滋

小島義郎

KENKYUSHA

KENKYUSHA'S
LIGHTHOUSE
ENGLISH-JAPANESE
DICTIONARY

ライトハウス英和辞典

1972年 研究社ユニオン英和辞典 初 版
1978年 研究社ユニオン英和辞典 第2版
1984年 (改称)ライトハウス英和辞典 初 版
1991年 ライトハウス英和辞典 第2版 第1刷



ライトハウス英和辞典 (2色刷)

編 者	たけはやし しげる こ じま よし ちろう 竹林 滋・小島義郎
発 行 者	長井四郎
発 行 所	株式会社 研究社 〒102 東京都千代田区富士見2-11-3 電話 編集 03(3288)7711 販売 03(3288)7777 振替 東京9-32260
組 版	研究社印刷株式会社
写真製版	株式会社 近藤写真製版所
印 刷	三英印刷株式会社
製 本	株式会社 ケイ・ビー・ビー (研究社製本)

ISBN4-7674-1502-0 C7582
PRINTED IN JAPAN

ま え が き

『ライトハウス英和辞典』は前身の『ユニオン英和辞典』以来6年ごとに改訂する方針を貫いてきたが、今回予定通り改訂版を世に送ることができたのは編者にとって大きな喜びである。さいわい『ライトハウス英和辞典』は学習辞典として高い評価を受けベストセラーの座を確保してきた。しかしそれに安住することなく改訂作業は出版直後から進められ、今回は今までにない大規模な改訂となったが、主な点は次の通りである。

1 英米の世界的学者の編集参加

我が国の英和辞典としては画期的なことであるが、本辞典を高く評価された米国の言語学者・英語学者 Dwight Bolinger 博士と英国の辞書学者 Robert F. Ilson 博士が編集に参加された。お二人は専門分野においては世界的な学者であるが、単なる名目的な編集顧問ではなく、実際に「語法」や用例などを綿密に校閲され、実に貴重なご意見を寄せられ、ときには例文もご執筆頂いた。編者としてこの上ない名誉と誇りと感謝の念を抱くものである。両博士が解説されたかまたは意見が反映されている箇所は《Bol.》《Ilson.》のように表示した。

2 英米人執筆者による全面的校閲

日本語が堪能な英米人の先生方に、単なる編集協力者としてではなく編集委員または執筆者として語義や用例などを執筆または校閲して頂き、収録の必要があるか否か、英文が適切であるか、日本語との間にずれがないか、などを徹底的に検討した。この際同一箇所を米人と英人をお願いした。この結果見出し語および語義の大幅な入れ替えが行なわれて、収録語数は約6万語となった。

3 句動詞の重視

句動詞をそれぞれの動詞の後にひとまとめにし、単語と同様に頻度や語義の重要度を正確に示した。これは本辞典の編集委員の Althaus 助教授のように日本語に極めて熟達した本国人が担当して初めて可能となったものである。句動詞にはまた文型を表示した。

4 二色刷りの紙面を採用

いっそうの学習効果を挙げるために紙面を二色刷りとし、最重要の見出し語とその訳語を赤で示した。赤で印刷の箇所は高校初級程度の学習者にとって必修であるとお考え顶きたい。また新機軸の単語の記憶の囲みと重要な日英語義比較なども赤で示した。

5 単語の記憶と日英語義比較欄を新設

river, rival, arrive, derive のように同じ語根を持つ語を一か所に囲んで学習者の単語の記憶の便を図った。また coast, shore 対「岸」のように英語と日本語とで意味の対応のずれがある語などではこれを表にして明快に示した。

6 学習基本語の再検討

*印の中学学習程度の最重要語約1000、*印の高校学習程度の重要語約1000、
*印

それに続く重要語 2000 (※ 印), 次の重要語 3000 (* 印) の頻度および語義の配列順を再検討した。初版では基本語 2000 を大型活字で示して好評を博したが、今回はそれに相当する重要語義も大型活字で示して学習の便を図った。

7 形容詞の文型

動詞の文型同様、形容詞にも新たに <A+前+名・代>, <A+to不定詞> のように文型を示した。

8 〔関連語〕欄の新設

新たに〔関連語〕欄を設け、見出し語と関連のある語を示し、学習者の語彙力の充実の一助にした。

9 各種の解説欄のいっそうの充実

〔語法〕・〔参考〕・〔日英比較〕・〔類義語〕・語義の展開など、旧版において好評であった欄はいっそうの充実をはかった。

10 発音表記の改善とフォニックスの理論に基づく表記の導入

従来は発音表記を [] で囲んで示してきたが、新版では / / で囲んで示すこととした。これは最近の言語学や辞書編纂の慣習に合わせたものである。また発音指導上の配慮から sit の母音に対して /ɪ/, look の母音に対して /ʊ/ の記号を新たに使用することにしたが、これは既に一部の高校教科書や英和辞典で行なわれている。なお学習指導要領の改訂にともない、近くヒアリング用の教科書が出現するが、このための教材としての利用を考慮して新たにアメリカ英語のいわゆる「有声の t」を /t/ で示すことに踏み切った。これについては巻末の発音解説を参照されたい。ただしこれらの記号を不要と思われる方は従来通りの普通の /i/, /u/, /t/ と置き換えて読んで頂いて結構である。また基本語 4000 に対しては発音記号を知らなくても発音できるよう、新しい発想によるフォニックスの理論に基づく発音表記を導入した。

11 『ライトハウス和英』との相互参照

今回の改訂版から『ライトハウス和英辞典』との間で相互参照が可能となった。本文の説明に関連する事項について『和英』の囲み項目や欄外により詳しい説明があるときなどが主であるが、これは『英和』と『和英』の編者が同一である『ライトハウス』で初めて可能となるものである。

12 付属教材

旧版の付属教材は新版に合わせて改訂され継続刊行されるほか、いくつかの新しい教材が追加される予定である。いっそうの活用をお願いしたい。

今回の改訂作業に当っては別掲の編集委員、校閲者、執筆者、調査・校正協力者の方々のご協力を頂いた。特に編集委員の八幡氏は Bolinger, Ilson 両博士との連絡に尽力された。深く感謝の意を表する次第である。

改訂版の作成に当っては最善を尽くしたが、今後とも理想の学習辞典を目指してさらに努力を重ねてゆく所存である。各位からのご教示を賜わるよう切に願ひする。

1990年8月

編者

初版まえがき(抜粋)

「語義の展開と要約」欄を新設 学習辞典においては語義は頻度順に記載するのは当然であるが、この結果語の基本的な意味がどのように発展または分岐したかという重要な情報が学習者に伝わらないことがある。今回の改訂に当ってはこのような欠陥を補うため、多くの重要語の冒頭に「語義の展開と要約」を囲みに入れて図式的に解説した。

〔日英比較〕欄を新設 英語から日本語に入ったいわゆるカタカナ語と本来の英語の意味との間に大きなずれが生じ、これが誤解の基となることがしばしば報じられている。また同じような事物でも日英でその社会的、文化的意味が異なることも多い。このような語では〔日英比較〕欄を新たに設けて適切な解説を加えた。英語の真の理解の一助になるものと考えた。

用法指示の充実 新たに《格式語》、《丁寧語》などの指示を採用し、語の使用範囲の指定をいっそうきめ細かいものにした。また形容詞の〔限定的に〕、〔述語的に〕の用法指示にはそれぞれ〔A〕、〔P〕の記号を導入した。

付属解説書の刊行 最後に特記すべきこととして、本辞典には『英語のつづり字と発音の指導』、『ライトハウス英語発音の基礎』(カセットテープ付)、『英語の辞書指導』の3点の付属解説書が別売されている。これによって『ライトハウス英和辞典』がさらにいっそう立体的に活用できるようになっている。ぜひ活用して頂きたい。

『ユニオン英和』第二版まえがき(抜粋)

ジェスチャーの挿絵を採用 英米の風俗習慣は我々のものとは多くの点で異なっている。例えば shrug one's shoulders や raise one's thumbs などの表現は実際のジェスチャーを知らなければ真に理解したとは言い難い。第二版では約60枚のジェスチャーの挿絵を掲げたが、これはわが国の英和辞典としては初めての試みで、意義のあるものと信じる。

類義語欄を新設 似たような意味をもちながら微妙な点で差異のある、いわゆる類義語の説明は学習者にとって極めて重要なことである。今回の改訂で新設した類義語欄によって本辞典の学習辞典としての内容はいっそう充実したと思われる。

『ユニオン英和』初版まえがき(抜粋)

五文型による動詞型の表示 本辞典ではいわゆる五文型に基づく動詞型の表示を採用した。動詞の例文には、<V>、<V+O(名・代)>の型を除いて、その直後に動詞型を明示し、構文の理解を完全なものとした。

辞書と文法書の合体 従来は辞書と文法書とは別々の存在であり、そのため一貫性を欠き、学習上マイナスとなることが少なくなかった。本辞典は両者の合体をはかり、基礎的な文法上の説明を大幅に取り入れた。また文法用語を欄外で解説し、これと本文中の関連事項とを密接に結びつけた。

解説図

1 見出し語

1.1 高校用基本語

2 発音

2.10 フォニックス記号

8.3 語法の囲み

2.1 1 音節語のアクセント

2.1 米音と英音

5.1 語義の展開と要約

5.7 形容詞の述語的用法

5 語義

5.7 形容詞の限定的用法

7.1 反意語

3.2 品詞別を示す

13 同音異義語

1.7, 1.8 つづり字の切れ目

4.2 複数形と発音

2.6, 4.1 見出し語と同じ つづり・発音

1.1 中学用基本語

1.6 つづりが同じで発音が 異なる語

12 派生語

12.1 派生語のアクセント

16.3 関連語

3 品詞

3.1 自動詞と他動詞の区別

4 語形変化

4.9 動詞の変化形と発音

8 用例

9 動詞型・形容詞型

10 成句

10.2 成句のアクセント

10.3 成句の機能表示

5.5 語法・文法上の指示

6.1 米音用法と英音用法

5.8 数えられない名詞

5.8 数えられる名詞

5.2 表で示した語義

2.3 文中で比較的弱く発音される語

2.11 アクセントの移動

2.7 省略できる音

6 文体・用法上の指示

6.3 専門語

ad·vise /ədˈvɪz/ (adV IŠE) 動 (ad·vis·es
~ɪz/; ad·vised /~d/; ad·vis·ing)

1 ...に忠告する, 助言する, 勧告する...
告してくれた / We advised them to start early.

<V+O+C(to不定詞)>...

【語法】(1) C(to不定詞)のほうでO(動名)よりも普通。(Bol.)《Ils.》
(2) 押しつけがましく響くことがあるので, I would advise you to ... とか It is advisable to [that] ... というほうが丁寧。(Bol.)《Ils.》

due /dʒiː/ | djuː/ (DŪE) 形 [比較なし]

元来は「当然支払うべき」1の意(【A duty 語源】)。

「当然なすべき」2 → 「正当な」3
「予定されている」4

1 ① (負債など)支払わなければなら

ない, 支払期日が来ている: the money (which

is) due (to) Mr. Smith <A+(to)+名・代>...

3 ① 【格式語】正当な, 当然与えられるべき...

be due to... ① ② ...の結果である, ...

① ② (因 undue)

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

allow /əˈlaʊ/ (aLOW) 動 (al-lows /~z/;
al-allowed /~d/; -low-ing) ㊤

1 (行為などを) 許す, (...が~するのを) 許可する,
(...)に~させておく ㊤ let² 類義語; forgive 表

15 相互参照

allow の句動詞

allow for... 動 ㊤ ...を考慮に入れる, ...を斟酌(しなぐ)する (受身 be allowed for): We must allow for her poor health. 彼女が体が弱いことを考慮に入れなければならない。

11.4 受身の表示

***allow in** 動 ㊤ 入場を許す <V+名・代+in>: Children are not allowed in. 子供は入場お断わりです。

9.6 句動詞の動詞型

allow of... 動 ㊤ 《格式語》[普通は否定文で](物事が)...を許す, ...の余地がある: Your conduct allows of no excuse. あなたの行為は全く弁解の余地がない。

ac-ro-bat /ækɹəbæt/ 名 ㊤ 綱渡り芸人, 軽業師, 曲芸師。 ㊤ 英比較 日本語では「アクロバット」を曲芸の意味で用いるが, 英語の acrobat は「曲芸をする人」で, 「曲芸」は acrobatics。

8.5 日英比較

***di-a-ry** /dai(ə)ri/ 名 ㊤ (-aries /-z/) 1 ㊤ 日記, 日誌...

㊤ 類義語 **diary** が著者自身の経験・出来事・感想などを中心にしたものをいうのに対して, **journal** は多少公的な記録に用いることが多い。

***man-u-al** /mænjuəl/ 形 1 ㊤ 手で行なう... ㊤ 語源 ラテン語で「手の」の意 ㊤ 単語の記憶

単語の記憶 《MAN》(手)

manual	(手の)
maintain	(手で支える → 保ち続ける)
manage	(手で馬を御(づ)する → 経営する)
maneuver	(手で動かす → 作戦行動)
manifest	(手で触れた → 明白な)
manner	(手で扱う方 → 方法)
manufacture	(手で作る → 製造する)
manuscript	(手で書いた → 原稿)

***hos-pi-tal** /hásptɹl | hós-/ (HŌSpital) 名
(~s /~z/)

㊤ 病院...

hospital のいろいろ

emergency hospital 救急病院, général hospital 総合病院, maternity hospital 産科病院, 産院, mental hospital 精神病院

16 ...のいろいろ

17 文法用語

direct object (直接目的語) 他動詞が2つ目的語をとる場合, 動詞の表わす動作の直接の対象となる名詞・代名詞などで, 普通は物などを表わすほうの目的語をいう ㊤ in-

direct object 欄外。直接目的語を主語とする受身の文については ㊤ passive voice 欄外 (2) (i)。

この辞書の使い方

1 見出し語

1.1 収録語数 約 60,000 語とした。このうち中学用基本語約 1,000 語に^{***}印、高校用基本語約 1,000 語に^{**}印をつけて大活字で示した。さらにそれに続く基本語約 2,000 語に^{*}印、次の 3,000 語に^{*}印をつけた。

1.2 収録範囲 英語の普通の語句・派生語・合成語のほか、固有名詞・接頭辞・接尾辞・短縮形・略語を収録した。

1.3 配列 配列は ABC 順とした。ハイフン (・) を用いて見出し語のつづりの一部を、スワングダッシュ (～) を用いて見出し語と同じつづりの部分を省略して示した場合がある。

^{*}help·ful ... 図 ... -ful·ly ... 圖 ... ～ness 図 ㊦

1.4 つづり字 米国と英国とでつづりの異なるときは米国式つづりを優先させ、《英》として英国式つづりを併記した。

la·bor·er, 《英》**la·bour·er**

一方の語を改めて見出し語としたときには次のように示した。

la·bour·er /léib(ə)rə | -rə/ 図 《英》=laborer.

1.5 2 種以上のつづり方があるときにはよく使われるつづりを先に併記した。またつづりが共通する部分は共通する 1 音節だけを残してハイフン (・) で省略した。[], () はそれぞれ言い換え、省略可能な部分を示す。

quar·tet, **quar·tette** / ^{*}**gas·o·line**, **-o·lene** / **né·on**
light [làmp] / **dór·mer** (win·dow)

1.6 つづりが同じでも語源の異なるもの、品詞によって発音が異なるものは別に見出し語として立て、肩番号をつけた。

^{*}**bow**¹ /báu/ ★ **bow**² との発音の違いに注意。圖 (bows /-z/; bowed /-d/; bow·ing) ㊦ 1 おじぎをする...

^{*}**bow**² /bóv/ ★ **bow**^{1,3} との発音の違いに注意。図 (～s /-z/) 1 ㊦弓...

1.7 つづり字の切れ目 つづり字の切れ目は大きな中点 (・) で示した。

^{*}**mon·u·ment**

1.8 語頭・語末の 1 字または 2 字は、行の終わりなどでは切らないほうが望ましいので小さな中点 (・) で示した (《[☞] syllabication》)。また人名は切らないほうが望ましいので全部小さな中点で示した。

^{*}**a·ble**² / ^{*}**cher·ry** / **tu·lip** // **Al·ex·an·dra**

1.9 合成語は各構成要素の切れ目以外はすべて小さな中点 (・) で示した。

trou·ble·mak·er / **rock·climb·ing** / **fill·ing sta·tion**

1.10 合成語でも構成要素の一方が初出のときは大きな中点 (・) を用いた。

Á·dri·at·ic Séa /édriàtik-/ 図 ㊦ [the ～] アドリア海...

2 発音 (《[☞] 発音解説 (p. 1693)》, フォニックス)

2.1 発音は最新の資料により国際音声字母を用いて見出し語の直後に / / の中に入れて示した。米音と英音とが異なるときは /米音 | 英音/ のように示した (《[☞] 発音解説 1》)。2 種以上の発音のしかたがある場合は、共通する部分はハイフ

ン(-)で示した。1音節語でもアクセントを示した(《辞》発音解説 13)。発音記号 /ə:, iə, eə, aə, ɔə, uə, ə/ については《辞》発音解説 5.7, 6.7-11, 8.4.

half /háef | há:f/ | **always** /s:lweiz, -wəz, -wiz/

2.2 母音字の上に /' / をつけて第一アクセントを示し、 / ʼ / をつけて第二アクセントを示した(《辞》発音解説 13)。

cir-cum-stance /sə:kəmstəns, -stəns | sá:-/

2.3 文中で比較的弱く発音する語は次のように示した(《辞》発音解説 15, 16)。

at /(弱形)ət; (強形)æt/

2.4 基本語の変化形には、動詞の現在分詞および形容詞・副詞の規則変化以外は、すべて発音を示した。

2.5 不規則な変化形には発音を示した(《辞》4.3, 4.7, 4.10)。

2.6 変化形の発音は、見出し語の発音と同じ部分をスワングダッシュ (~) で示し、一部が変わるときは同じ部分をハイフン (-) を用いて省略した(《辞》4)。

2.7 省略できる音を示す記号を () の中に入れて示した。

hand-bag /hænd(b)æg/ 図

2.8 2語以上から成る見出し語については、それぞれが、独立して見出しにあれば発音は示さず、見出し語にアクセント記号だけを示した。

foam rúb-ber 図 ㊦ 気泡ゴム, フォームラバー。

2.9 独立して見出し語にない語やまぎらわしいときは一部を示した。

córned béeif /kóənd- | kó:nd-/ 図 ㊦ コーンビーフ。

léad pén-cil /léd-/ 図 ㊦ 鉛筆。

2.10 星印 * 以上の 4,000 語にはフォニックス記号を入れ、英語のつづり字と発音の関係をある程度規則的に把握できるようにした。発音記号の後に () で示されているのがそれである(《辞》つづり字と発音 (p. 1702))。

***quick-ly** /kwíkli/ (QUÍCKly)

2.11 アクセントの移動(《辞》発音解説 14)が起こることがあるものについては発音記号の後に ^ を用いて示した。

***Ja-pa-nese** /dʒəpəní:z^/... **full-grown** /fúlgróun^/...

2.12 カセットテープ(別売)に吹き込まれている例文には **カセット** と表示した。

3 品 詞

3.1 品詞名は次のように略号を用いて示した。

図 = 名詞, ㊦ = 代名詞, ㊦ = 形容詞, ㊦ = 副詞, ㊦ = 助動詞,

㊦ = 動詞, ㊦ = 前置詞, ㊦ = 接続詞, ㊦ = 感嘆詞,

㊦㊦ = 接頭辞, ㊦㊦ = 接尾辞。

また下位分類は ㊦ = 自動詞, ㊦ = 他動詞, ㊦ = 固有名詞 のように示した。

3.2 ある見出し語の中に 2 つ以上の品詞があるときには — で示した。

He-brew /hí:bru:/ 図 1 ㊦ (古代の)ヘブライ人, ヘブル人。 2 ㊦ ヘブライ語。 — ㊦ ヘブライ人の; ヘブライ語の。

ただし発音が異なるときは別に見出し語とした(《辞》1.6)。

3.3 自動詞, 他動詞の別を示すときは — を用いた。

in-dent /indént/ ㊦ ㊦ 1 ...にぎざぎざをつける, へこませる。... — ㊦

1 ぎざぎざをつける。

4 語形変化

4.1 名詞・代名詞・形容詞・副詞・動詞・助動詞の語形変化を示した。不規則な変化をするものは、略号(複・比・最・三単現・過去・過分・現分)とともに()内に示したが、規則的な変化をするものは略号を省いた。基本語は規則的な変化をするものについてもすべて示したが、見出し語と共通な最後の音節のつづりを残して略記した。一般語については不規則な変化をするもののみ示した。見出し語と同じつづりの部分はスワングダッシュ(～)で示した。

2種以上の変化形はよく使われるほうを先に併記したが、使われ方に差がないものは()でまとめて示した場合がある。

***car·go** /kárəgou | ká:-/ ㊦ (～(e)s /～z/)

***sum·mit** /sámmit/ ㊦ (sum·mits /-mits/)

4.2 名詞 基本語は複数形が用いられるものはすべて示した。

***in·cli·na·tion** /ínklánéifən/ ㊦ (～s /～z/)

4.3 不規則変化をする複数形はすべて略号とともに示した。

***man** /méén/ (MÁN) ㊦ (複 men /mén/)

***sheep** /jí:p/ (SHEEP) ㊦ (複 ～)

4.4 2語見出しまたはハイフン(-)のついた合成語でも複数形になると第1要素が変わるときには次のように示した。

prince cón·sort ㊦ (複 princ·es cón·sort)

look·er·on /lúkəán, -ó:n | -kárón/ ㊦ (複 look·ers·-)

4.5 つづり字が -o, -f, 子音字+y で終わる語はすべて複数形を示した。

4.6 形容詞・副詞 -er, -est をつけて比較級・最上級をつくるものはすべて示したが略号は省いた。

***keen** /kín/ ㊦ (keen·er; keen·est)

4.7 不規則な比較変化は略号とともに省略せずに示した。

***good** /gúd/ (GŌŌD) ㊦ (比 bet·ter /bétə | -tə/; 最 best /bést/)

4.8 単音節で more, most をつけて変化するものは示した。

***like** ... ㊦ (more ～; most ～)

4.9 動詞 基本語は三単現・過去・過分・現分の順にすべて示したが規則変化については略号を省いた。

4.10 不規則動詞は略号とともにすべて示した(㊦ 不規則動詞活用表(p. 1716))。

***go**¹ /góu/ (GŌ) ㊦ (goes /～z/; 過去 went /wént/; 過分 gone /gón, gún | gón/; go·ing)

4.11 規則変化でも子音字を重ねるもの、子音字+y で終わる語、-c で終わる語は基本語・一般語を問わず、すべて示した。

sic¹ /sík/ ㊦ (sics; sicked; sick·ing)

5 語義の展開と要約, 日英語義比較, 語義, 語法・文法上の指示, ㊦, ㊧, ㊨

5.1 重要語の語義の前に語義の展開と要約を示す囲みを設けた。語義の展開は意味の発達と分化を図式的に示したもので、要約は語義を簡潔にまとめたもの。

5.2 重要な語で、日本語と英語の対応が誤解を招きやすく、注意を必要とするものについては、表の形で語義を示した。

draw (鉛筆・ペン・クレヨンなどで)	(絵を)描く
paint (絵の具で)	

5.3 語義の区分は **1**, **2**, ..., さらに細かく分けるときはセミコロン (;), コンマ (,) を用い, また大きな区分には **A**, **B** を用いた. また成句の語義区分は (1), (2), ... を用いた.

5.4 *印の語(1,000語)と*印の語(1,000語)については, 重要な語義が目立つように大きい活字で示した.

5.5 語法上および文法上の指示・注意は訳語の前に [] で示した. スワングダッシュ (～) は見出し語と同じつづりの部分を表わし, ダッシュ (—) は見出し語が一部変わるときの変わらない部分を表わす.

blare ... 一図 [a ～, the ～] やかしい音.

gos·pel /gúspəl | gós-/ 図 **1** [the G—] (キリストの説いた)福音...

5.6 一部の言いかえは [] を用いて示し, 省略には () を使用した.

re·por·tage² /rèpɔ:tá:ʒ | -pɔ:-/ 図 **U** ルポルタージュ, 報告文学(の文体[手法]).

5.7 **A** **P** 形容詞の[限定的に]を **A**, [述語的に]を **P** で示した(《**☞** attributive use 欄外, predicative use 欄外).

5.8 **C** **U** 数えられる名詞を **C**, 数えられない名詞を **U** で, さらに両方に用いられる名詞は **UC** で示した(《**☞** countable 欄外, uncountable 欄外).

5.9 [次の成句で]として訳語を示さない場合がある.

fro /fróu/ 図 [次の成句で] **tó and fró** [副] あちらこちらへ...

6 文体・用法上の指示

語・成句(の意味)が地域, 時代, 文体, 専門分野などに関して限定されることがある. 主な用法上の指示は《 》, [], [] で示す. 指示のないものは普通に用いられる一般の語句である.

6.1 地域によって用法・意味などが異なるときは, 《(米)》, 《(英)》などのように, その用法上の指示を《 》で示した(《**☞** 13.2).

crib /kríb/ 図 **1** **C** 《(米)》ベビーベッド(《(英)》cot).

6.2 どういう場面・文脈で使うかという文体上の差異は次のように示した.

《略式語》... くだけた感じの語・句で, 特に友人・家族のような親しい人同志の会話や手紙に使う.

《格式語》... 格式ばった語・句で, 公式の改まった場面でのスピーチや公文書・商業文などに用いる.

《丁寧語》... 相手に対する敬意を表わした丁寧な語・句.

《俗語》... 《略式語》よりもさらにくだけた品位に欠ける語・句で, 普通限られた仲間うちで用いたり, 特殊な効果を狙って使う.

《卑語》... 卑猥(ふい)な, または差別的な品のない語・句で, 人前で使ってはいけないとされる.

《古語》... 今ではあまり使われない古風な感じの語・句で, 年配の人の言葉や古い文献などに見られる.

《詩語》 ……主に詩や美文調の書き言葉の中で用いられる語。

《文語》 ……硬い文学作品や改まった文書に用いられそうな語・句。

《小児語》 ……主に幼児や子供が使う語・句。

6.3 分野別の専門語は『 』, 説明は《 》で示した。

tee /ti:/ 図 C 《ゴルフ》ティー, 球座《打つときにボールをのせる台; ㊦ golf 挿絵》。

6.4 どのような態度や感情的含みで用いるかを示す必要があるときは, 次のように [] で示した。

【悪い意味で】 ……対象となる人・物に対して批判的な悪い意味で用いる。

【よい意味で】 ……対象となる人・物に対して好感を持ってよい意味で用いる。

【軽べつ的に】 ……対象となる人・物に対して軽べつの気持ちをこめて用いる。

【皮肉に】 ……対象となる人・物に対して皮肉をこめて用いる。

【こっけいに】 ……対象となる人・物に対して冗談半分にこっけいな意味合いで用いる。

【遠回しに】 ……聞き手に不快感を与える内容をやわらげるために用いる間接的な言い方。

7 類義語・反意語

7.1 その語と同じような意味の語は訳語の後に () で示したが, 微妙な違いがある語はまとめて【類義語】として示した。反意語は(図)で示した。

8 用例・語法・参考・日英比較

8.1 語義の後をコロン(:)で区切り, その後に用例を示した。特に動詞の用例は重視し, すべて完全な形の文で掲げるように努めた。

8.2 見出し語・成句に相当する部分や, 注意すべき部分をイタリック体で示し, 他をローマン体で示した。

***fe-ver** /fi:və|-və/ 図 1 ㊦ [しばしば a ~] (病気の)熱... / Tom is in bed with a fever. トムは熱を出して寝ています。

***com-bat**¹ /kámbat | kóm-/ 図 (com-bats /-bæts/) ㊦C 戦闘...
in cómbat [形] 戦闘中で[の]...: We were in combat with the enemy. 我々は敵と交戦中であった。

8.3 語義・用例などの注意すべきことがらは【語法】で説明した。なお説明の長いものについては囲みにして目立つようにした。中でも重要なものに関しては, 高名な言語学者 Dwight Bolinger (米国), Robert F. Ilson (英国) 両氏に校閲をしていただき, それぞれ《Bol.》《Ils.》と示した《㊦解説図》。

8.4 【参考】としてその語に関連する説明を加えた。

8.5 日本語と英語との意味や用法の違い, あるいは社会的・文化的な相違を【日英比較】で説明した。

9 動詞型(㊦動詞型解説(p. 1709)), 形容詞型(㊦形容詞型解説(p. 1715))

9.1 五文型によって基本語の動詞の例文に動詞型を示した。ただし <V>, <V+O>, <V+副> の型は除いた《㊦動詞型解説 II 1 および II 3》。目的語が名詞または代名詞のときは単に O とした。同じ動詞型の例文が続くときは初

めの例文に動詞型を示し、後の例文の動詞型は省いた。また、*die hard*, *cross oneself* などのように慣用句になっているものは原則として成句とし、動詞型は示さなかった(㉞ 10)。

9.2 特定の前置詞をとるものは *in*, *on*, *to* などをもそのまま <V+O+to+名・代> のように示した。<V+O+前+名・代> の「前」はいろいろな前置詞が用いられることを示す。

***plunge** ... ㉞ 1 飛び込む... He *plunged into* the river. <V+into+名・代> 彼は川に飛び込んだ...

9.3 文の要素 (V, O, C) を明示しにくいときは、<V+前+名・代>, <V+to不定詞> のように具体的な形だけを示した。

9.4 [主に受身で] などのように動詞型が一定しているときにはその動詞型は示さなかったが、その他の受身の場合は <V+O の受身> などと示した。

9.5 五文型で示せない動詞型については [語法], [] を用いて示した(㉞ 本文 take ㉞ 20 [語法])。

9.6 見出し語とした句動詞の中で <他動詞+副> の型のうち、副詞の位置が目的語の前または後に固定しているものは動詞型を示した(㉞ 動詞型解説 III)。

9.7 動詞型の説明に準じ、重要な形容詞には形容詞型を示した(㉞ p. 1715; adjective 欄外)。

10 成句

10.1 原則として各品詞の語義・用例のあとにゴシック活字を用いてまとめて示した。配列は単語を単位とするアルファベット順で示した。

10.2 成句にはすべてアクセントをつけて「話す英語」の面も重視した。

10.3 品詞名の略号に準じて成句の機能を [名], [形], [副], [動] のようにできるだけ示した(㉞ 3.1)。[動] はさらに ㉞ ㉞ の区別をした。

10.4 **one** は主語に相当する代名詞が用いられることを表わす。..., ...'s では主語と異なる名詞・代名詞が用いられることを表わす。ただし ... では他の語 [句・節] がそこに来ることをも示す。

*** **mind** /mámd/ (MÍND) ... ㉞

make up one's mind [動] (1) (いろいろ考えた末に)決心する: Liz has *made up her mind to be a nurse*. リズは看護婦になる決心をしている。

11 句動詞(㉞ phrasal verb 欄外)

11.1 動詞の成句のあとにゴシック活字を用いてまとめて示した。配列は単語を単位とするアルファベット順で示した。数が多いものは「...の句動詞」として囲みで示した。

11.2 句動詞は見出し語に準ずる扱いで、重要なものは星印、大活字で示した。

11.3 句動詞にはすべてアクセントをつけて「話す英語」の面も重視した。

11.4 受身が可能なものについては (受身 ...) として示したものもある。

12 派生語

12.1 基本語について派生関係を示す語は各品詞別の記述の最後にアクセントをつけて () で示した(㉞ 解説図)。

13 同音異義語

13.1 つぶり・意味が違うが同じ発音の語は (同音) として項目の最後に示した。

***waist** /wéist/ 図 (waists /wérists/) 1 ㊦ ウエスト, 腰: Mary has a slender waist. メアリーはほっそりしたウエスト... (同音 waste)

13.2 # は2つ以上の発音のしかたがあるとき, そのどちらかと 同じ発音の語を表わす. また《米》は米国の発音と, 《英》は英国の発音と同じ語を表わす.

***oar** /óə | ó:/ 図 (～s /～z/) 1 ㊦ (船の)かい, ろ, オール... (同音 o'er, ore, #or, 《英》awe)

14 語源・単語の記憶

14.1 基本語のうち語の成り立ちが理解の助けになると思われるものは, [語源] として訳語・用例の後に示した. 語義の展開の囲みで示した場合もある.

***re-mote** /rimóut/ (rèMÔTE) 図 (re-mot-er /-tə | -tə/, more ~; re-mot-est /-tíst/, most ~) 1 遠く離れた...

[語源] ラテン語で「遠くに移された」の意; remove と同語源. (㊦ motion

[単語の記憶])

***jet**¹ /dʒét/ 図 (jets /dʒéts/) (JĚT)

ラテン語で「投げる」の意 → 「噴き出す」 → 「噴出」 2 → (噴射推進式の飛行機) → 「ジェット機」 1

14.2 単語記憶の一助とするため, 同じ語源を持ついくつかの語をその語源をキーワードとして一か所に集め, どのように現在の意味を持つにいったったかを

[単語の記憶] として囲みで示した.

単語の記憶 《PORT》 (運ぶ)	
export	(外へ運び出す → 輸出(する))
import	(中へ運び入れる → 輸入(する))
report	(運び戻す → 報告する)
sport	(仕事から人を遠ざける → スポーツ)
support	(下から運び上げる → 支える)
transport	(他の場所に運ぶ → 輸送(する))
portable	(持ち運びできる)
porter	(運ぶ人)

15 相互参照

15.1 見出し語を参照すれば便利なときは, (㊦) を用いた.

***brake**¹ ... 図 (～s /～s/) ㊦ ブレーキ (㊦ bicycle 挿絵)...

15.2 本辞典の姉妹編である『ライトハウス和英辞典』にさらに参考になる説明が見られる場合は, 「㊦『和英』...」として示した.

15.3 類義語については ㊦ 7.

15.4 反意語は (図) で示した (㊦ 7).

16 表・挿絵, ...のいろいろ, 関連語

16.1 情報を1か所に集中させるため表・挿絵を採り入れた. 写真も使用した.

16.2 例えば hospital では「hospital のいろいろ」としていろいろな hospital を1か所にまとめて枠で囲んだ (㊦ 解説図).

16.3 意味が関連し, 組にして覚えると便利な語を関連語として囲みで示し訳語を与えた. 語義・用例の後に [関連語] として示した場合もある (㊦ 解説図).

17 文法用語

17.1 欄外に文法用語解説を設け, 本文中に (㊦ 欄外) と示して本文と欄外の解説との相互参照の完璧をめざし, 辞書と文法書の合体をはかった. 巻末に文法発音用語和英対照表を設け, 欄外解説の索引を兼ねた.

18 地 図

18.1 この辞書で採録した米国・カナダ・英国・オーストラリア・ニュージーランドの地名については原則として見返しの地図を参照させてある。

***San Fran-cis-co** /sænfrænsískou/ 図 ㊦ 1 サンフランシスコ《米国 California 州中部の San Francisco 湾に臨む都市；㊦ 表見返し D 4》。

19 この辞書で使用している略号と記号の用法

19.1 略号

図 [名]	名詞	前 [前]	前置詞	最	最上級
㊦	固有名詞	感 [感]	感嘆詞	三単現	三人称単数
代 [代]	代名詞	接頭	接頭辞		現在形
動 [動]	動詞	接尾	接尾辞	過去	過去形
自	自動詞			過分	過去分詞
他	他動詞	《米》	米国用法	現分	現在分詞
助 [助]	助動詞	《英》	英国用法	動名	動名詞
形 [形]	形容詞	《略》	略語	複	複数形
副 [副]	副詞			単	単数形
接 [接]	接続詞	比	比較級	[複]	複数名詞

★ 動詞型で示してある略号・略記については ㊦ 動詞型解説 I (2)。

㊦ ㊦ については ㊦ 5.7, ㊦ ㊦ については ㊦ 5.8, 文体・用法上の指示については ㊦ 6。

19.2 記号の特別な用法

- () …省略 (㊦ 1.5, 2.7, 4.1, 5.6)。
- 《 》 …用法上の指示 (㊦ 6.1, 6.2), 説明 (㊦ 6.3), 相互参照 (㊦ 15.1)。
- / / …発音 (㊦ 2.1)。
- [] …言い換え (㊦ 1.5, 5.6), 語法上・文法上の指示・注意 (㊦ 5.5)。
- ~, ~ …見出し語と同じつづり, または発音を表わす (㊦ 1.3, 2.6, 4.1, 5.5)。
- …見出し語の一部が変わるときの 変わらない部分を表わす (㊦ 5.5)。
- 図 …反意語を表わす (㊦ 7)。
- ← …派生関係を示すときに用いてある。
- i-za-tion /izéiʃən—arizéi-/ 接尾 [-ize で終わる動詞の名詞語尾] 「…にすること, …化」の意: nationalization (国有化) ← nationalize (国有化する)。
- ← …アクセントの移動を示す (㊦ 2.11)。
- , ↓ …語義の変遷を示す。
- # …2 つ以上の発音のしかたがあるとき, そのどちらかと同じ発音の語 (㊦ 13.2)。
- ★ …注意すべき説明。
- ㊦ …「参照せよ」の意。

発 音 記 号 表

母 音 (vowels)		子 音 (consonants)	
記 号	例	記 号	例
/i:/	east /i:st/	/aʊə aʊə/	tower /táʊə táʊə/
/i/	happy /hæpi/	/p/	pen /pén/
/ɪ/	ink /ɪŋk/	/b/	big /bíg/
	pocket /pákit pók-/	/t/	tea /tí:/
/e/	end /énd/	/d/	day /déi/
/æ/	hand /hænd/	/k/	key /kí:/
/æ a:/	ask /æsk á:sk/	/g/	get /gét/
/ɑ:/	father /fá:ðə -ðə/	/f/	face /féis/
/ɑ ɔ/	top /táp tóp/	/v/	very /véri/
/ɔ:/	all /ɔ:l/	/θ/	three /θrí:/
/ɔ: ɔ/	cloth /klɔ:θ klɔθ/	/ð/	this /ðís/
/u:/	food /fú:d/	/s/	sun /sʌn/
/u/	actual /æktʃuəl/	/z/	zoo /zú:/
/ʊ/	book /búk/	/ʃ/	ship /ʃíp/
	today /tʊdéi/	/ʒ/	vision /víʒən/
/ʌ/	come /kám/	/ts/	cats /kæts/
/ə: ə:/	bird /bá:d bá:d/	/dz/	reads /rí:dz/
/ə/	around /əraʊnd/	/tr/	tree /trí:/
	China /tʃáinə/	/dr/	dry /drái/
	chorus /kó:rəs/	/tʃ/	cheap /tʃí:p/
	lemon /lémán/	/dʒ/	joy /dʒói/
	element /éləmənt/	/h/	hat /hæt/
	animal /ænəməl/	/m/	man /mæn/
/ə ə/	teacher /tí:tʃə -tʃə/	/n/	night /náit/
/eɪ/	eight /éit/	/ŋ/	sing /sín/
/aɪ/	ice /áis/	/l/	leaf /lí:f/
/ɔɪ/	toy /tói/	/r/	red /réd/
/aʊ/	out /áut/	/j/	yes /jés/
/oʊ/	go /góv/	/w/	week /wí:k/
/ju:/	cute /kjú:t/		
/ju/	manual /mænjuəl/		
/ju/	popular /pápjulə pópjula/		
/ɪə ɪə/	ear /iə íə/		
/eə eə/	hair /héə hée/		
/ɑə ɑ:/	arm /áəm á:m/		
/ɔə ɔ:/	store /stóə stó:/		
/ʊə ʊə/	poor /púə púa/		
/juə juə/	pure /pjúə pjúa/		
/aɪə aɪə/	fire /fáɪə fúa/		
		アクセント記号	
		/' 第一アクセント	
		/ 第二アクセント	
		examination /ɪgzæmənéɪʃən/	

★それぞれの発音記号については1693ページ以下の解説を参照。